

難民支援と国際理解教育フォーラム

## 学校教育受ける機会を与えよう

日本UNHCR

難民への理解を深めてもらうと、NPO日本UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）協会は11月23日「難民支援と国際理解教育フォーラム」を、東京・原宿の国連大学で開催した。国際問題に関心のある教員や学生ら約300人が参加した。まず、UNHCRのロバート・ロビンソン駐日代表が講演。

現在、世界には難民の子どもが900万人おり、その3分の1が学校

に通っていない。日本は学校の数も多く世界的に教育水準が高いことから「難民に対して、継続的な教育支援ができる」と強調。日本にいる難民に学校教育を受ける機会を与えることが重要であるとした上で、「少しでも多くの人と難民の現状について話し合う場を持つてほしい」と訴えた。

パネルディスカッションには、横浜市立老松中学校の小藤俊樹教諭や東京都立千早高校の佐藤芳考校長、文科省初中局国際教育課の手塚義雅課長らが参加。難民理解を深める国際理解教育の在り方で意見交換した。